

## ちば里山カレッジ「次世代リーダー養成コース」実施報告書(6)

特定非営利活動法人ちば里山センター

テーマ	第6回 講義&ワークショップ
日時	平成27年2月28日(土) 9時~17時00分
場所	千葉県緑化推進拠点施設
出席者	受講生(31名) 担当理事(2名)・スタッフ 講師: NPO法人 千葉自然学校 理事 遠藤 陽子 講師: 独立行政法人 森林総合研究所 研究コーディネーター 木口 実 講師: 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事 牧野昌子 W.S. コーディネーター: // 副代表理事 勝又恵里子
内容	9:00~10:15 「里山活動における社会的起業」 NPO法人 千葉自然学校 理事 遠藤 陽子 10:30~12:00 「バイオマスの有効利用技術と産業化への可能性」 独立行政法人 森林総合研究所 研究コーディネーター 木口 実 13:00~16:40 講義&ワークショップ「NPOの組織づくりと運営に求められるもの」 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 代表理事 牧野昌子 (W.S. コーディネーター) 副代表理事 勝又恵里子
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「里山活動における社会的起業」遠藤講師による講義では「ちば自然学校」の活動を通して、社会的企業についての実情を述べられた。社会的企業とは①社会的課題の解決を目的に事業を起すこと②有料のサービスを提供して課題を解決すること③資金源が自らの事業であるので、より柔軟でスピーディーな事業展開が図れる。これらの点を活かした現在の活動の中で芽生えつつある企業があり、儲けはないけれど継続した活動ができているとのことである。</li> <li>・「バイオマスの有効利用技術と産業化への可能性」木口講師は「長年バイオマスの研究を続けてきたが、近年急にバイオマスに対する注目度が上がった」と仰られた。バイオマスの特徴・利用の重要性・低コストのバイオマス提供などについて具体例を挙げながら説明された。木は何十年もかかって育つのでその使い方をよく考えなければならない。有効に使いまわして、これ以上は無理というところまで使ったら初めて燃やす。ここでCO<sub>2</sub>が出るが、育つときに取り入れたCO<sub>2</sub>とイコールなので問題なく循環ができる。木の中のセルロースを紙やバイオエタノールにする。リグニンの使い方を開発したので高機能製品をつくる。木質リグニンの働きもいろいろわかってきて有効な使い方が考えられている等日本のバイオマス事情について説明された。</li> <li>日本の山を広葉樹化しようという国の目標が決められた。里山広葉樹については今後その重要性が高まると思うので、どんな樹種がどのくらいあるか等を今のうちに調べておくようにとのこと。</li> <li>・「NPOの組織づくりと運営に求められるもの」初めに牧野講師による組織の法人化についての説明があった。市民活動団体にとって一番大事な事は目的があること。それをどのように解決していくか。どのような人材を集めるか。千葉県の調査によると、一番困っているのが人材がいないこと。高齢化していること。次の後継者が育たない。二番目には資金がないことであった。また、ボランティアを継続していただくにはどうしたらよいか等組織づくりに大切なことが示された。続いて勝又講師のコーディネートにより事業計画の立て方を実践した。受講生は6班に分かれ自分の考えの発表・他の人の考えを聞く・班ごとに一つの目標を選び全員で事業計画をつくるという作業を共有した。</li> </ul>

添付資料（写真）



事業計画づくりのルール

- ①はじめに自分の事業計画を立てる
- ②5分ずつで発表する・・・タイムキーパーを決める
- ③一人が一度だけ質問できる・・・4分以内に質疑応答
- ④発表された中から班として取り上げるテーマを一つ選ぶ
- ⑤全員で事業計画を完成させる

報告書作成：杉田初代